

# 稲作情報

(次年度対策)

令和3年度第8号

令和4年2月15日発行

福島県喜多方農業普及所、JA会津よつば、  
喜多方市、北塩原村、西会津町

## 次年度の技術対策

### 1 安定生産に向けた土づくりの実施

#### 【土づくりの効果】

近年の干ばつや極端な日照不足といった異常気象に対するイネの抵抗力が高まります。土壌分析（数年に一度で可）を実施したうえで、堆肥や土壌改良資材の施用、稲わらのすき込みなどにより地力の維持・向上を図りましょう。

#### 【堆肥・土づくり資材の施用例】

堆肥：牛ふん堆肥 1トン/10a

土壌改良資材：とれ太郎、ケイカリン、ケイカリンバリュー、田んぼマスター等

※ごま葉枯病が発生するような秋落ち水田では、含鉄資材を投入しましょう。

#### 【稲わらの春すき込みの留意点】

稲わらは秋すき込みが基本で、堆肥に近い効果があります。なお、秋にすき込みできなかったほ場でも、春先に焼却せずにすき込みましょう。

- ・稲わらは、均一に散らします。
- ・稲わら分解促進剤（ワラ分解キング等）は基本的に秋に施用しますが、春に使用する場合はなるべく早い時期（代掻き45日前まで）に施用してすき込んでください。
- ・代かきは浅めにして、稲わらを土中に埋め込みます。
- ・なお、ガスの発生による根腐れを防ぐため、一時落水や中干し、溝切り、間断かんがいをを行い、土中に酸素を供給しましょう。

#### 【肥料価格高騰について】

昨今、原料価格の高騰に伴い肥料の価格も高騰しています。施肥コストを抑えるため、土壌診断に基づく適正な施肥や海外市況に影響されにくい地域資源（堆肥）の活用も検討しましょう！

なお、活用できる堆肥の情報は喜多方農業普及所で提供しています。

### 2 いもち病の防除

近年、育苗箱施用剤の普及により、いもち病の発生は少なく推移しています。しかし、育苗箱処理剤の効果は出穂期まで持たないことや、出穂後2週間が最も穂いもちに感染しやすいことにより、気象条件によっては多発することもあります。天気予報等を確認するとともに、雨天が続く場合や常発地では、必要に応じて本田防除も行いましょう。

### 3 斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシ類による着色粒は、近年の2等以下への主な格付理由になっています。近年、斑点米カメムシ類は多発傾向ですので、防除の徹底を図りましょう。防除は、除草と薬剤防除が中心です。さらに、広域で一斉に行うとより効果的です。

## ○水田内外の除草 ⇒ 水田に侵入する斑点米カメムシ類の数を抑える

- ・斑点米カメムシ類の発生源となる畦畔や水田周辺の雑草地の草刈りを計画的に行いましょう。特に、斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を好むため、エノコログサやメヒシバ等のイネ科雑草の穂が出ないように実施することが大切です。
- ・また、水田内にノビエやホタルイがあると斑点米カメムシ類が誘引されるため、これらの雑草が残った場合には、抜き取るなど水田内の除草対策もしっかり行いましょう。

## ○薬剤防除

- ・散布剤（粉剤や液剤等）は、乳熟期（出穂期の7～10日後）、水面施用剤（粒剤）は穂揃期～乳熟期に施用します。その後多発が予想される場合は散布剤で追加防除します。
- ・天のつぶは、割れ粃が発生しやすいことから斑点米カメムシ類の被害を受けやすいため、乳熟期とその7日後の2回防除を基本とします。

## 4 雑草対策

昨年発生した雑草の種類を確認し、種類に合わせた対策を講じましょう。

### ○除草剤の選定は適切でしたか？

- ・昨年発生が多かった雑草に効果の高い除草剤を選びましょう。
- ・一発剤で不十分な場合は、初期剤や中・後期剤を組み合わせましょう。

### ○除草剤の散布時期は適切でしたか？

- ・雑草の発生時期は、その年の気象により毎年異なります。雑草の発生状況をよく観察し、散布適期を逃さないように散布しましょう。

### ○ほ場の状態は適切でしたか？

- ・水持ちが悪いと除草剤の効果が低減しますので、畦塗り等の漏水対策を行いましょう。
- ・除草剤の効果を十分に発揮させるため、田面の均平化に努めましょう。

### 【雑草イネ対策】

- ・近年、「雑草イネ（赤米）」の発生地域が拡大しています。雑草イネの特徴は、草丈が高い、粃の色が赤い（黒い）、粃が簡単に脱粒する、玄米が赤いなどです。
- ・雑草イネの種子（赤米）が収穫物に混入すると、2等以下へ格付されることがあります。早期に発見して、発生が少ないうちに速やかに対応することが大切です。
- ・雑草イネの発生するほ場では、除草剤の体系処理（初期剤、初中期剤、中期剤の組み合わせ）を行うとともに、疑わしいイネを見つけた場合には株ごと抜き取り、埋却しましょう。また、直播栽培の場合は移植栽培へ切り換えてください。

## 5 基本技術の励行

近年、異常気象が続いていることから、本格的な栽培が始まる前に、健苗育成、肥培管理、水管理、雑草防除、病害虫防除、適期刈取りなどの基本技術を再度確認し、適期作業の励行による気象変動に強い稲づくりを目指しましょう。

★本情報の内容や米づくりに関するお問い合わせ、相談はこちらへどうぞ。

会津農林事務所喜多方農業普及所

TEL 0241-24-5744

J A会津よつば喜多方営農経済センター営農振興課

TEL 0241-21-1801